

分担金・拠出金の名称	文化遺産保存日本信託基金拠出金	評価	B
拠出先の国際機関名	国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)		
国際機関の概要	国連教育科学文化機関(ユネスコ)は、教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することを目的としており、教育、科学、文化等の分野における国際的な知的交流事業や途上国への開発支援事業を実施。現在195の国・地域を擁する機関となっている。		
拠出により我が国が期待する成果目標及び活動指標		達成状況	
1. (1) 成果目標:重要外交課題の遂行上の有用性、我が国実施事業との相互補完性 活動指標:ユネスコ活動を通じた我が国重要外交施策への貢献		我が国は、国際的にも高い水準にある文化遺産保護に係る技術を持ち、また、これまで官民の諸機関が海外の文化遺産保護協力を実施してきた実績もあり、文化遺産保護先進国である我が国からの支援への要望はきわめて高い。 また、基本的に各事業には、我が国専門家の参加を確保しており、我が国の「顔の見える援助」としての効果も大きく、技術移転の側面にも大きな効果がある。 さらに、財政危機にあるユネスコにおいて我が国の影響力を維持し、我が国の世界遺産の登録を円滑に進めるためにも信託基金の活用は有益となっている。	
(2) 成果目標:機関等の意思決定における我が国のプレゼンス 活動指標:ユネスコ意思決定機関における地位の確保		我が国は、条約の運用を担う世界遺産委員会の委員国に3回当選し、積極的な貢献を行い、2014年の世界遺産委員会には、副議長を務めた。 本件拠出金の実施にあたっては、我が国の保存・修復技術に関する高い技術を活用し、我が国専門家の事業参加を確保しており、ユネスコに対する我が国の発言力・影響力の強化やプレゼンスの確保に繋がっている。	
(3) 成果目標:機関等の専門分野等における影響力や組織・財政マネジメント等 活動指標:基金運用の改善		我が国は、ユネスコとの間で定期的に開催する本信託基金のレビュー会合等を通じて、基金運用の課題や改善方策に関するユネスコ側との意見交換を行い、効果的な我が国ビジビリティの向上など、よりよい運用を追求できている。例として、本年は上記のプロセスにより拠出金の運用に係るガイドラインの改良を行った。	
(4) 成果目標:我が国人材の知見、専門性を通じた教育、文化等ユネスコ所掌分野への貢献 活動指標:ユネスコにおける邦人職員数の増加、邦人職員増強に向けた取組		邦人職員数(専門職以上)は、平成25年度は53人、平成26年度は48人で推移(なお、ユネスコ職員数(専門職以上)は過去2年で約50人削減)、4.7%以上を維持している。右数にはD1ポスト(ニューデリー所長)が含まれる。また、ユネスコに対しては、我が方日本国政府代表部を通じて、邦人職員の増強に向け、定期的に意見交換や申し入れ等行っており、邦人職員増強に向けた取組を進めている。	
2. PDCAサイクルの確保		①計画段階(Plan):日・ユネスコ年次レビュー会合で年間計画を策定。ユネスコ提出の個別事業案を審査、承認。②実施段階(Do):ユネスコ提出の進捗報告書等によるモニタリング。必要に応じ各事業内容を修正。開会式典への出席、プレスリリースの発出等を通じ、ビジビリティを確保。③評価段階(Check):最終報告の確認。④フォローアップ段階(Act):日・ユネスコ年次レビュー会合等を通じて、事業運営を改善。	
担当課・室名	外務報道官・広報文化組織 国際文化協力室		